

入学式式辞

桜花爛漫の校庭に陽光があふれる今日の良き日、相愛中学校・高等学校の二〇一三(平成二十五)年度入学式を挙行いたしましたところ、浄土真宗本願寺派津村別院副輪番・大阪教区教務所所長石田真住様をはじめ多数のご来賓の皆様、併せて保護者会である育友会、後援会、敬愛会、そして同窓会の会長の皆様をはじめ本校にご縁の深い方々のご臨席を賜り、二〇一三(平成二十五)年度入学式を挙行できますことは、誇らしく、大きな喜びであります。理事長・学園長とともに、心より御礼を申し上げます。

新入生一四一名のみなさん、相愛中学校・高等学校ご入学おめでとうございます。

さて、新入生のみなさん、小学校・中学校生活では気付かなかったことをこの相愛で過ごす三～六年の中で気付いていただきたいと、今日、ご入学にあたり私はみなさんをお願いしようと思っております。

ひとつは「ありがとう」

もうひとつは「おかげさま」です。

な～んだそんなことか、と思われたかもしれません。

言葉自体はよく口にされていらっしゃるかもしれませんが、相愛の生徒として口にされるこれからは、その意味するところをしっかりとわきまえていただきたいという点で重みを持つと言えますね。

まず「ありがとう」です。これは有ることが難しい、つまりめずらしい、おつかしいはずのことが今ある。なんとめぐまれていることか！という表現が「ありがたい」「ありがとう」の意味です。日本語のもつ本来の美しい言葉の一つとされます。

ところでこの「ありがたい」の反対語は何かご存じですか？「あたりまえ」です。わかる

でしょう。「あってあたりまえ」「そうなるのが当然」と思う気持ちが支配している間は、「ありがとう」の感謝の言葉は生まれてきませんものね。

という訳で、今日、こうして入学式が迎えられたこと、つまり今日という日が来たことと、相愛の生徒としてスタートを切れたことに「ありがとう」です。これからも今日という日は人生の中で二度と来ない瞬間だということをよくかみしめてください。私のいのちを磨く青春の日々に、できごとに、そして出会いに「ありがとう」です。

ふたつ目「おかげさま」です。

まわりが無理をしてでも貴女の都合に合わせてくれることにスマナイと思うとか、身代わりになってくれた時に礼を言うような「おかげさま」とは大分意味が違いますよ。

事実、人はみな周囲から何かをされて生きている、いや生かされているのです。それはどうしてですか？などとその理由をいちいちうかがうことはしませんが、そのことに気付いた時点で生かされている者同士、支えあうとはどういうことなのかについて考えるでしょう。それがお互いさまであり「おかげさま」なんですよ。

今日四月五日を入学式と決めたのは一年前のことでした。主役は新入生である貴女方ですが、みなさんのご都合をお尋ねした訳ではありません。しかしご両親、ご親戚、おじいさんおばあさん、来賓のみなさんそれぞれがこの日を楽しみにしてくださいました。そしてこの瞬間、こうして一堂に会して貴女方を祝福して下さっています。小学生時代、中学生時代に全くその存在すら知らなかった同い年の人と隣りあわせて座っていますね。これから三～六年の学園生活の中で生涯の友人関係を築く人かもしれませんね。

また、貴女がこんなに立派に成長されたのも貴女ひとりの力ではありません。いいですか、貴女のいのちは、まわりの多くの方々の支え、願いに包まれてこうして有るのです。これを「おかげさま」と言います。

仮に誰かが貴女の存在だけを切り離そう、つまみあげようとしてもできません。網の目のように全部がからみあい、つながりあっているからです。この状態を仏教的な考え

方から『縁起』と言います。世の中の全ての存在は、お互いに関係しあって「おかげさま」でやっと成り立っているのだ、という意味です。

みなさんが入学された相愛中学校・高等学校は、浄土真宗本願寺派の宗門校であります。北御堂に隣接しているのもそのためです。「ありがとう」「おかげさま」の意味を深く感得し、そのうえで貴女方の口から自然に出てくる学園生活を送れることを目指し、我々教職員は教育活動を推進したいと決意いたしております。

いのちの輝きにあふれる新入生のみなさんを歓迎し、私の式辞といたします。

二〇一三(平成二十五)年四月五日

相愛中学校・高等学校校長
安井大悟